おふたいむ

茶源郷の健康を守る

和束町税住民課長

細井隆則　氏

■■税住民課長として春で６年目になるということですが、この間の国保業務はいかがでしょうか。

「平成 20 年度から施行された後期高齢者医療制度の立ち上げ時に担当者として携わっていたので、課長になる前までは新国保制度も府内の全市町村が加入する広域連合のような形になるものだと思っていました。新しい国保制度では、都道府県が財政運営の責任主体ということで、財源の心配は少し解消されたというのが実感です。ほぼ枯渇していた町の国民健康保険財政調整基金も積み立てができるようになりました」

保険税の減少が心配です

■■国保業務での課題や悩みがあれば教えてください。

「住民戸籍係長の時、同じ課の国保担当者と共に、スタートしたばかりの特定健診・特定保健指導に 1 年間関わったことがあります。その当時、特定健診の受診率は 25％程度からスタートしました。平成 28 年度から特定健診の被保険者負担を無料にしたり、受診期間を延ばしたりして、受診率のアップに努力し、今は 40％前後で推移していますが、もともとの目標には程遠く、まだまだ課題は続きます」

「和束町といえば『茶源郷』ともいわれ、お茶が主産業です。ところが、実家（仕事場）は和束で、住んでいる所は近隣の市町といったように、和束から「転出」される茶農家が目立ってきました。また、茶業で大規模にやっておられる所は法人化し、国保から社会保険に移行されるケースもあり、国保の保険税の減少につながりますので、つらいところです」

■■新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響についてはいかがでしょうか。

「コロナ禍による東京五輪・パラリンピック開催の延期で、海外客からの需要も見込んでいた茶問屋さんの買い控えなどもあって、国保の保険税の減免申請をされた茶農家がたくさんありました。令和３年度の保険税の減少がやはり気になります。また、税住民課長としては、住民税（町税）の減少も考えられ、町全体の財政状況を考えると頭が痛いです」

「２月から所得税の確定申告の相談、住民税の申告受付を役場や各地区の公民館等で実施しています。『密』を敬遠し、会場でなく車内で待機を希望される方には、携帯電話の番号を聞いて対応するなどの予防策も取るようにしています。直接の窓口ではありませんが、ワクチン接種も予定されており、一日も早くコロナ禍が収束してほしいですね」

■■仕事で心掛けておられることは何ですか。

「課員にのびのびと仕事をしてもらうためにはどうすればいいか。できる限り敷居を低くし、話しやすい職場をつくるのが私の一番の課題だと思っています」

一番つらい質問です

■■ご自身の健康法などを教えてください。

「国保担当でありながら恥ずかしいのですが、高血圧、高脂血症、糖尿病と、生活習慣病のフルコースです。この質問が一番つらいのですが、あえて言えば、近隣の温泉に車で行き、ぼーっとする時間を持つことです。今はコロナでじっと我慢ですが…。２、３年前までは役場まで自転車通勤していたこともあるので、季節がよくなれば再開し、茶源郷を走りたいと思っています」

ほそい・たかのり

1991 年に入庁。税住民課住民戸籍係長、農村振興課商工観光係長、総務課課長補佐などを経て、2016 年に税住民課長に就任。好きな言葉は「なるようになる」。「何もしなければ、なるようになりません。日ごろの地道な努力があってこそだと理解しています」。一つ一つの質問に、丁寧に答えていただく際の優しいまなざしが素敵だった。